

# 島根 更生保護

NO.200

(平成31年1月1日発行)  
島根県保護司会連合会

〈島根更生保護データ〉

保護司総数	495人
保護観察事件	117件
生活環境の調整事件	216件
(30.12.1現在)	



雪の塩見縄手 (日本写真家協会会員 古川誠氏提供)



## 新年のごあいさつ

中国地方更生保護委員会  
委員長 稲葉 保

明けましておめでとうございます。

皆様方には、平素から更生保護に対しまして、格別の御尽力と御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、安全で安心して暮らせる地域社会の実現のため、再び犯罪や非行をすることを防ぎ、改善更生を助ける更生保護の営みは、極めて重要です。御案内のとおり、平成28年12月、再犯の防止等の推進に関する法律が成立・施行されました。また、一昨年12月には、国の再犯防止推進計画が閣議決定され、昨年は同計画の初年、いわゆる推進計画元年でありました。

島根県におかれましては、高齢犯罪者の処遇に関し、息の長い伴走型の支援を実現するため、多機関の総合調整を担う更生保護コーディネーターを育成する再犯防止推進モデル事業を実施していただい

ております。今後、その成果を踏まえた上で、実効性のある地方再犯防止推進計画の策定や諸施策の実施に取り組んでいただくことを期待しております。

皆様方は、犯罪をした者等を地域で共に生きる人として受け入れ、社会復帰を支援していただいております。更生保護に関わる者は、「人はみな、生かされて生きてゆく。」、喜びも悲しみも、また、支え、支えられる喜びも共にする。この更生保護の心を大切に、今後も地域に関わり、共に取組を進めてまいります。本機関誌は本号で200号の節目を迎えられました。昭和28年1月発行の創刊号は、「やまびこ」と命名されています。保護司同士、保護観察官と保護司、関係団体の方々との間で常に響き合い、しっかりとした協働態勢の下、充実した更生保護を展開したいと思います。

本年は、更生保護制度施行70周年を迎えます。更生保護の維持・発展は、民間の方々の御尽力なくしてはあり得ません。どうぞ今後とも更生保護に対し、御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の御健勝と御多幸をお祈り申し上げます。



松江保護観察所  
所長 加藤 雅之



謹んで新年のお慶びを申し上げます。本年は、更生保護制度施行七十周年という節目の年に当たります。この記念すべき年に、安全・安心な地域社会を築くため、再犯防止に向けた取組を力強く推進し、国民の負託に応えたいと存じます。官と民、国と地方が円滑な連携を保ちつつ、犯罪・非行のない明るい島根県、犯罪や非行に陥った者が再びやり直せる魅力にあふれた地域社会の実現を目指し、引き続き皆様の御協力をお願いいたします。

島根県保護司会連合会  
会長 坂本 圭祥



新陽輝く初春を迎え、謹んでお慶び申し上げますとともに、更生保護関係者各位のご多幸を心よりお祈り申し上げます。平素の更生保護事業・連合会活動に格別のご理解とご支援をいただいておりますことに深く感謝し、さらなるご協力とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

更生保護法人島根保護観察協会  
理事長 古瀬 誠



謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、皆様方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。本年も更生保護事業の一層の充実・発展に取り組むとともに、安全・安心な地域社会の実現に向けて積極的に寄与してまいる所存でございます。皆様方の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

更生保護法人更生保護施設「しらふじ」  
理事長 大野 美雄



新年あけましておめでとうございます。天変地異の多かった平成の御代もとうとう最後となりました。この一年が、そして来る御代が安らかでありますことを願うものであります。平素、更生保護法人「しらふじ」に格別のご支援、ご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。昨年も高い収容率を維持しながらも、更生保護の最後の砦として、施設長以下全職員がまことに士気高く日々の職務に精励しています。また、利用者も感謝の思いを持ちながら更生を誓って生活しています。今年も何彼とお世話さまになります、何卒よろしくようお願い申し上げます。

島根県就労支援事業者機構  
会長 古瀬 誠

新年明けましておめでとうございます。保護観察対象者で無職者の再犯率は、有職者に対し約4倍高くなっております。彼らの再犯を防ぐためにも、就労して経済的に自立することが不可欠であり、当機構は雇用主に対し給与支払助成をする等、就労の場の確保に努めております。本年も、会員のご協力を得ながらこの取組を進める所存でございます。今後とも一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

島根県更生保護女性連盟  
会長 板倉 靖子



新年明けましておめでとうございます。関係機関の皆様方には、島根県更生保護女性連盟の活動にご理解とご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。私達島根県更生保護女性会は、三者連携を始め関係機関と力を合わせ、今年も更生保護事業に協力してゆきたいと存じます。本年も変わらぬご指導、ご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

島根県BBS連盟  
会長 春日 智徳



新年あけましておめでとうございます。更生保護事業関係者の皆様には、BBS活動にご理解ご協力を賜り心から御礼申し上げます。引き続き、松江、出雲、浜田の3地区で行うBBS地区会での活動にご支援いただきますようお願い申し上げます。



# 平成30年度島根県更生保護事業関係者顕彰式典

平成30年11月15日(木)松江市総合福祉センターに約230名の更生保護事業関係者が参集し、中国地方更生保護委員会稲葉保委員長や島根県知事(代理:健康福祉部平岡昇次長)を始めとする来賓の御臨席のもと、更生保護事業関係者顕彰式典が盛大に開催された。本年度は「再犯防止推進計画元年」であることもあり、開会前に、大田地区保護司会毛利敏則保護司のハーモニカ伴奏とともに、島根県民歌『薄紫の山脈』が会場全体で斉唱され、島根県内の各機関が一丸となって更生保護事業のために協力する体制を決起した。

開会後は、坂本島根県保護司会連合会長の式辞、加藤松江保護観察所長の挨拶に続いて、永年更生保護関係事業に多大な功績のあった415名の更生保護事業関係者に表彰状及び感謝状が授与された。表彰終了後、益田地区保護司会草野和馬保護司から受彰者を代表して謝辞がなされ、再犯防止推進法の趣旨を踏まえ、地方公共団体との連携をこれまで以上に進めていきたい旨の抱負が述べられた。その後、来賓からの祝辞、来賓

紹介、本式典に参列した地方公共団体担当者の紹介、祝電披露と続き、更生保護法人「しらふじ」大野美雄理事長による万歳三唱が行われて閉会となった。閉会后、本年11月21日に開催される更生保護70周年第24回島根県更生保護大会(大田市「サンレディー大田」で開催予定)での再会を会場全体で約して散会となった。



島根県民歌斉唱



坂本県保護司会会長式辞



法務大臣表彰授与



法務大臣感謝状授与



受彰者代表謝辞



法務大臣表彰受彰者



法務大臣感謝状受彰者

## 平成30年度各種表彰受彰者(敬称略)

### 法務大臣表彰

〔保護司〕

- 永岡 邦利 (松江)
- 兒島 光明 (大田)
- 月森 勝博 (大田)
- 藤井 好文 (大田)
- 寺本 堯憲 (邑智)
- 瓦田 富子 (浜田)
- 濱本 義基 (浜田)
- 木村 興志雄 (益田)
- 草野 和馬 (益田)
- 吉田 均 (隠岐)

### 法務大臣感謝状

〔更生保護女性会員〕

- 柳 樂利子 (多伎)
- 上田 正子 (海士)
- 〔BBS会員〕
- 春日 智徳 (出雲)
- 〔“社会を明るくする運動”民間協力者〕
- 池田 仁志 (松江)
- 〔島根保護観察協会〕
- 有限会社スペース企画
- 代表取締役会長 原 勝次 (出雲)

### 全国保護司連盟理事長表彰

〔保護司〕

- 安藤 裕子 (松江)
- 吉野 光徳 (松江)
- 中井 秀三 (大田)
- 岸 博道 (邑智)
- 清水 靖之 (浜田)
- 齋藤 奈美子 (浜田)
- 伏谷 恒子 (益田)
- 下森 敦之 (益田)
- 古川 静子 (隠岐)
- 名越 邦博 (隠岐)

〔内助功労者〕

- 高橋 澄代 (松江)
- 川本 登美子 (出雲)
- 〔全国更生保護法人連盟理事長表彰〕
- 桑原 壽之 (島根保護観察協会)
- 松本 英史 (しらふじ)
- 〔日本更生保護女性連盟会長表彰〕
- 〔更生保護女性会員〕
- 織奥 靖子 (松江)
- 藤原 映子 (平田)
- 加藤 澄子 (出雲)
- 山根 満江 (邑智)
- 奥田 文子 (益田)



更生保護功勞による  
叙勲・褒章（敬称略）

瑞宝双光章 宮川 公 子（益田）  
藍綬褒章 石川 正 伸（松江）



### 感謝

益田地区 宮川 公 子

この度、平成30年秋の叙勲で、身に余る瑞宝双光章を受章いたしました。去る11月8日法務省で勲章伝達式を終え、皇居に参内いたし、豊明殿にて、天皇陛下に拝謁する榮に浴しました。間近で陛下のお元気なお姿に接し、温かいお言葉を賜り、この上ないごほうびをいただきました。無常の光榮に感謝です。この光榮は多くの方々の御努力に支えられ、たまたま私が代表で出席

させていただきましただけのことです。右も左もわからない中、30数年間支えていただきましたおかげです。諸先生方にお礼申し上げます。今後残りの5年間、自分に出来る事は精一杯努力したいと思いません。毎日毎日が、いろいろな意味での勉強です。おごらず、ゆっくりと、地道に努力して前進したいと思いません。

関係者皆様方に、ここまで育てていただいたことに感謝いたし、お礼申し上げます。ありがとうございました。

今後とも御指導賜りますよう、お願い申し上げます。



### 褒章の重み

松江地区 石川 正 伸

このたび平成30年秋の褒章に際し、はからずも藍綬褒章の榮に浴しましたこと、有難く感謝に堪えません。

去る11月14日法務省での褒章伝達式に参列の後、引き続き皇居に参内し、豊明殿において、天皇陛下に拝謁の榮譽と共にねぎらいのお言葉を賜り感激の極みでございました。

これもひとえに保護観察所、関係機関、諸先輩等多くの皆様方のご指導ご支援の賜と深く感謝を申し

上げます。

顧みますに平成7年6月1日に保護司を拝命以来今日までの間には保護観察中の少年が再非行をし、少年鑑別所での面接となったこともあり、私の指導力不足を痛感し深く反省したことがありました。今まで担当した対象者の顔々が浮かび、元気かな、どうしているのかな、時々思い出すことがあり、他人事とは思えず保護司としての使命を感じております。

この度の受章を機に、さらに身を引き締めてこの榮譽に恥じないよう一層精進し、更生保護活動に努めたいと存じますので、何卒宜しくお願い申し上げます。



## 更生保護の心を広め、あたたかな人間愛を届けたい 平成30年度(第58回) 愛の図書贈呈式を開催

平成30年12月7日、松江保護観察所会議室において、島根県更生保護女性連盟主催による「愛の図書」贈呈式が行われました。これは、子どもたちや、心ならずも罪を犯した人たちに、「感動する心」や「人を思いやる心」を培ってほしいとの願いから、地域の方々から頂いた募金で矯正施設等に図書券を贈呈している運動で、今年で58回を迎えます。



贈呈式では、来賓に島根県知事代理、島根県保護司会連合会長を迎え、島根県内からお招きした矯正施設や児童相談所、更生保護施設等の代表者に、島根県更生保護女性連盟板倉靖子会長から図書券が贈呈されました。

なお、当日の贈呈先は次の11の施設です。



贈呈先

- 松江刑務所・美保学園
- 島根あさひ社会復帰促進センター
- 松江少年鑑別所・わかたけ学園
- 中央児童相談所・出雲児童相談所
- 浜田児童相談所・益田児童相談所
- 更生保護法人しらふじ
- 島根県女性相談センター



## 中学校訪問

邑智地区 南山 智恵子

「こんにちは」「よろしくお願ひします」で始まるある中学校の授業風景です。若くはつらつとした生徒に出会う私達保護司もドキドキの感じます。

平成29年度に「学校と保護司との連携強化のための推進事業」の指定を受けた。この事業を保護司会と更生保護女性会との共催で、中学校への出前授業として実施する事になった。保護司会長・更女会長・分区長・研修担当4人でチームを作り、学校関係者と何度も打ち合わせを行い、内容・方法・学年・期日など話し合い中学校への出前授業が実施出来るようになった。

保護司とは、更生保護とは、更生保護女性会とは、協力雇用主会とはなどの内容を、進行係・保護司会長・更女会長・分区長で分担して授業に

### 視点

### 焦点

臨んだ。生徒の作文を読んだり、DVDハンドを視聴したり、キャリア教育としての講話をしたり、意見交換したり学校からの要望に応じて対応してきた。授業の最後

には生徒達に感想文を書いてもらった。「罪を犯した人に会うのは怖くないですか」「家族や地域の人にお世話になっているのだとわかり感謝したい」「友達を大切にしていじめを見つけたらいけないと言おう」「地域の人に出会ったら挨拶したい」「保護司は仕事ではなくボランティアだと聞いて驚いた」など多彩な意見を聞くことが出来た。更女の会員手作りのマスコットペンギン「ほごちゃん」をプレゼントした時は生徒が声を上げて喜んでくれた。

「これで保護司の話が終わります」

「有り難うございました」

学校の理解・協力で感謝しながら今後も続けたい。

## 地区だより

## 住みよい安心・安全な社会をめざして

宍道地区 野津 千洋子

私たち宍道地区更生保護女性会は、会員40名の団体です。会員は高齢化してきていて、年齢を理由にやめる方も出てきています。退職された方に声をかけ、参加を促していますが、思うように数は伸びていません。

私たちの活動は町内にある自立支援施設「わかたけ学園」の園遊会で始まります。野立で抹茶サービスをする生徒たちのお手伝いをします。生徒たちは日頃お茶の先生に指導を受けていて、この日が実践の場となっています。この他、体育祭や学習発表会の参観もします。みんなの一生懸命

に取り組む姿には感動を覚えます。全員で行うソーラン踊り、太鼓演奏はみんなの顔が輝き、生き生きとした発表は圧巻です。生徒たちのより良い成長を願っています。

そして、大きな活動は愛の募金活動です。7月から8月にかけて行い、9月に町内の幼保園小・中学校、高校、わかたけ学園、公民館、しらふじの9か所に愛の図書金として届けます。

三団体（保護司、民生児童委員、更女）合同の研修会も大きな活動です。今年は更女が担当だったので、講師を招き、研修しました。

視察研修も年一回行います。近隣の障害者施設や更生保護施設を見学し、理解を深めます。今年は美保学園に行きました。去年は「しらふじ」でした。

そして、年度末に総会を開き、今年度の活動の締めくくりとします。この際にも講師をお招きし、会員の研修の場としています。

子や孫が安心・安全な社会で成長してほしいと願い、ささやかな活動ではありますが、いろいろな団体と協力し、進めていきたいと考えています。



# 第68回“社会を明るくする運動” 作文コンテスト島根県最優秀作品



## 小さなことから



島根県・出雲市立西田小学校 6年  
米江 琳香

わたしは、学校に行く前に朝の情報番組をよく見ます。番組の初めに大きく取り上げられるニュースは、明るくハッピーな話題よりも、暗い事件が多いです。わたしは、そんな事件のニュースを見るたびに暗い気持ちになります。なぜ、犯罪はなくなるのでしょうか。

それは、人口減少や、人と人とのつながりが希薄になり、周りに見守ってくださる人が少なくなってしまうからだとわたしは思います。わたしの周りには、登下校時いつも見守ってくださる地域の人があります。声をかけてくださる大人がいます。だから、毎日安全で幸せな暮らしができると思います。また、学校で勉強して家に帰ると温かくむかえてくれる家族がいます。だから、毎日楽しく暮らせると思います。

でも、犯罪をしてしまう人の周りには、温かく声をかけてくれる人や話を聞いてくれる人がいないのかもしれない。自分に自信がなくなった時、支えてくれる人がいないのかもしれない。

わたしは、犯罪や非行のない社会をつくるために、小さなことから取り組んでみるのが大切だと思い実行しています。

一つ目は、あいさつです。あいさつは、人の心を温かくしてくれます。登下校の時、遠くにいる人にもあいさつを試みることにしました。

「こんにちは！」

「おかえりなさい。」

このひとことだけで、笑顔になれるあいさつは、魔法の言葉です。この短い会話で心が温まるので、これか

らも続けていきたいです。

二つ目は、空き缶拾いなどのごみひろいをすることです。毎年、夏に地域の奉仕作業に参加しています。道端に落ちている缶やペットボトルなどを拾って歩き、ごみが無くなった時は、すごくいい気持ちになりました。自分が住んでいる地域がきれいになると、心もきれいになり事件は起こらない気分になります。犯罪や非行をなくすために必要なことは、これだけではないと思います。だれにでも、優しく接したり、みんなと仲良く遊んだりすることも大切だと思います。一人でも、さみしい、つらい、悲しいと思う人を減らせば、社会から犯罪や非行がなくなり、明るい社会をめざせると思います。

さらに、犯罪や非行をしてしまった人がいたら、その人を立ち直らせる場所をつくってあげることが大切だと思います。「罪を憎んで人を憎まず」ということわざがあります。犯した罪は憎むべきだが、その人が罪を犯すまでには、事情もあったのだから、罪を犯した人そのものまで憎んではいけないという教えです。このことわざのように、罪を犯した人は憎まず、その人が社会に戻れるよう温かい環境を社会全体でつくっていきたくです。普段の生活でも、もし、だれかが、悪いことをし、叱られ落ち込んでいても、みんなで励まし合いお互いを高め合うことで良いクラスをつくれると思います。

これからの社会を担うわたしたちが、少しでも社会を変えていけるように、小さなことから取り組んでいき、みんなで支え合い明るい社会をめざしてがんばっていきたくです。

## 第68回“社会を明るくする運動”作文コンテスト入賞者

### 【小学生の部】

#### 最優秀賞

第68回“社会を明るくする運動”

島根県推進委員会委員長賞(1位)

『小さなことから』

出雲市立西田小学校 6年 米江 琳香

#### 優秀賞

島根県保護司会連合会長賞(2位)

『地域の人とつながって』

松江市立朝酌小学校 6年 野津 茉凜

更生保護法人島根保護観察協会理事賞(3位)

『悩みやいじめは

一人一人の意識で無くなる』

出雲市立塩冶小学校 5年 井上 優真

山陰中央新報社賞

『わたしの願い』

奥出雲町立亀高小学校 5年 若槻 美桜

『幸せをわけ合って』

出雲市立稗原小学校 6年 柿本 康陽

島根県更生保護女性連盟会長賞

『優しい声かけの素晴らしさ』

益田市立東仙道小学校 6年 下元 琉生

『ボランティア活動でつながる』

浜田市立長浜小学校 5年 沖田 桃菜

島根県BBS連盟会長賞

『明るい地域を目指して』

益田市立安田小学校 6年 渡辺 梨胡

『大丈夫』

浜田市立雲雀丘小学校 6年 藤井 凌雅





## 犯罪を犯した人に対して

中学生の部

島根県・益田市立小野中学校 3年  
吉本 有歩

私は、テレビの再現ドラマで、犯罪を犯した人が刑務所を出た後のことをとり上げたものを見たことがあります。私が見たドラマでは、二つのケースがありました。

一つは「犯罪をくり返してしまう」ケースです。刑務所を出た人にも様々な人がいると思いますが、過去の犯罪を反省して、やり直そうと思っている人も多いと思います。その人たちが働こうとして面接を受けても、会社側は「犯罪歴」を問題にして採用せず、周囲の人たちからも冷たい目で見られ続け、追いつめられて再び犯罪を犯してしまうというケースでした。

もう一つは「犯罪を犯す前と同じような生活にもどっている」ケースです。働こうとして面接を受け、過去にこだわらずに採用されて、努力して働く姿を認められて、少しずつ社会に理解されていきました。

刑務所を出てから立ち直ることができる人と、そうでない人との違いは何なのか。私はこの二つのケースをもとに考えました。私は立ち直ろうとする本人だけでなく、周囲（社会）の人たちの態度に関係があるのではないかと思います。

「犯罪歴がある人は採用できない。」という人の心配する気持ちはわかる気もします。もし、その人が問題を起こしてしまったらどうなるのか。その人の過去を知る人は自分の会社のことをどのように見るだろうか。そのような不安を全く感じないと言いきれる人はどのくらいいるのでしょうか。

しかし、その人が立ち直ろうとして新しいスタートをふみ出した時に、いつまでもその人の過去にこだわ

ることは偏見であり、重大な差別につながるのだと思います。むしろプラスの発想が必要です。その人の長所に目を向けて会社を支える力として大切にしていけば、その人のおかげで会社の業績を良くしていくこともできると思います。立ち直ろうとする人と支えようとする会社の両方がプラス思考で考えれば、お互いにとって良い方向に歯車が回っていくのではないのでしょうか。

社会の人は犯罪を犯した人に対して冷たすぎると思います。凶悪な事件が起きるたびに犯罪を犯した人に悪いイメージを抱くことは私にもあります。けれど、刑務所で服役し、「これからやり直そう」と思っているのに、スタートする前から受け入れてもらえなかったら、がんばろうとしていたその人の気持ちはどうなるのでしょうか。私だって、何かをしようとした時に、やり始める前から「ダメだ」と言われたら、やる気をなくしてしまうし、何でそんなことを言うのか怒ると思います。やろうとする気持ちをみとめてもらえたり、話をきちんと聞いて考えてもらえるだけでも、その人の心は少し軽くなると思います。

多くの人は世間の人目を気にして犯罪を犯した人に冷たくするのかもしれないけれど、そのような態度が、その人をもう一度犯罪者にしてしまうのかもしれない。犯罪を犯したことがある人に対してもきちんと向き合うこと。そのことが、その人を立ち直らせることと、犯罪を減らすことにもつながるのではないかと私は思いました。

応募総数1277点（小学校855点）  
中学校422点

### 【中学生の部】

#### 最優秀賞

第68回“社会を明るくする運動”  
島根県推進委員会委員長賞(1位)  
『犯罪を犯した人に対して』  
益田市立小野中学校3年 吉本 有歩

#### 優秀賞

島根県保護司会連合会長賞(2位)  
『“社会を明るくする運動”』  
益田市立東陽中学校1年 波田歩直実

更生保護法人島根保護観察協会理事長賞(3位)

『曾祖母とのふれあいと後悔』  
大田市立北三瓶中学校1年 森山 心渚  
山陰中央新報社賞  
『流されない』  
美郷町立大和中学校3年 細 瑞希  
『生と死を見つめて』  
出雲市立斐川西中学校1年 川西 柚葉

島根県更生保護女性連盟会長賞

『児童虐待について考えたこと』  
大田市立第二中学校1年 岩谷 樹莉  
『地域の関わり』  
江津市立江津中学校3年 泉 颯人  
島根県BBS連盟会長賞  
『心のモヤモヤを晴らして』  
松江市立玉湯中学校1年 小室 瑞貴  
『あいさつがつながる安心の輪』  
奥出雲町立仁多中学校2年 部田 光

シリーズ サポートセンターだより 出雲更生保護サポートセンターについて

出雲地区保護司会では、平成21年7月、民間の賃貸施設に事務所を設け、保護司会の事務を一元的に処理してきましたが、平成24年4月に法務省の指定を受けて、この施設を「出雲更生保護サポートセンター」として開所しました。

このセンターは、地域における更生保護活動の拠点として、平日の9時から16時まで1～3名の企画調整保護司が駐在し、来所者等への対応と共に保護司会や事業主会・BBS会の事務処理、関係機関・団体との連絡・調整、ホームページや広報紙による情報の発信など行っています。

センターの開所によって、物資の保管、会議室や面接室・会員の集いの場所の確保などと共に「公」的施設としての社会的認知度が高まり、関係機関との連携が強まりました。

また、専任の事務局体制が整ったことにより、様々な活動について活性化を図ることができました。

保護司会活動では、機能部会を中心とした全員参加による保護司会活動の展開や保護司処遇活動への支援、社明啓発講演会の例年開催、退任保護司や地域の更生保護団体との連携強化、更生保護施設への支援活動

等々。事業主会やBBS会の活動では、休止していた活動を再開し、総会や研修会の開催・社会参加活動への参加協力などが可能となりました。

平成29年1月には、出雲市社会福祉協議会をはじめ関係の方々のご理解とご支援により、市中心部にある出雲市社会福祉センターへ移設し、関係機関との一層の連携強化と利便性の向上を図ることができました。改めて、衷心より御礼申し上げます。

今後とも、出雲地域における更生保護活動の拠点として、関係機関・団体の皆様方と一層の連携を図りながら、再犯防止を推進し、犯罪や非行のない安全・安心の地域社会づくりに努めてまいりますので、ご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



執務中の企画調整保護司



広報紙編集委員会の開催

東部地区・石見地区保護司代表者会議の開催について

平成30年10月22日(月)に大田市三瓶町内にある「国民宿舎さんべ荘」において、石見地区保護司代表者会議が大田地区保護司会のお世話をいただき開催された。当日は、松江保護観察所長及び大田市長並びに坂本県保連会長のご臨席を得て、保護司会が抱える諸問題について熱心に意見交換がなされた。



また、同年10月26日(金)には、雲南市三刀屋町内にある「ホテル上代」において、東部地区保護司代表者会議が雲南地区保護司会のお世話をいただき開催された。起業家の高橋日出男氏のご講演、パープサートや腹話術を使った雲南地区における犯罪予防活動の紹介がなされた。



保護司の異動

〔退任保護司〕17名  
(平成30年11月30日付)

- |              |            |
|--------------|------------|
| 伊東 克行 (松江)   | 足立 眞司 (出雲) |
| 柏木 洋子 (松江)   | 小林 郷史 (出雲) |
| 須山 俊二 (松江)   | 藤田 努 (出雲)  |
| 長谷部 大悟 (松江)  | 兒島 光明 (大田) |
| 間瀬田 あい子 (松江) | 岡田 義徳 (浜田) |
| 村社 征利 (安来)   | 廣瀬 美子 (浜田) |
| 田中 篤美 (安来)   | 神一 紀道 (益田) |
| 坪倉 充明 (雲南)   | 永見 勝徳 (益田) |
| 松田 勉 (雲南)    |            |

〔新任保護司〕12名  
(平成30年12月1日付)

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 石原 裕二 (松江)  | 坂本 裕太 (出雲)  |
| 細田 由紀子 (安来) | 村武 まゆみ (浜田) |
| 山崎 道弘 (安来)  | 山田 義雄 (浜田)  |
| 内田 祐司 (雲南)  | 安達 貞則 (益田)  |
| 永戸 尚樹 (雲南)  | 豊田 展子 (益田)  |
| 今岡 輝夫 (出雲)  | 馬場 真昭 (益田)  |

敬 弔

下記の方がご逝去されました。ご功績を偲び謹んで哀悼の意を表します。  
元保護司 石飛 清治 (出雲) (平成30年11月19日逝去)  
元保護司 亀谷 恵真 (大田) (平成30年12月3日逝去)

ご支援ありがとうございました

(島根保護観察協会) 敬称略  
藤間 恵一 山本 勝昭 石川 正伸  
塩谷 法顕 島根県更生保護女性連盟  
松江地区更生保護女性会

(表紙写真説明)

ご縁を探して!～雪の塩見縄手～

写真 古川誠さん (日本写真家協会会員)

雪景色がよく似合う古い家並みと松並木。いかにも老松らしい風格を見せるのはくぐり松です。縁結びのパワースポットとして人気です。この木のどこかに♥があるはず。みなさんも探してみてくださいはいかがでしょうか。

(文 松江地区保護司会 北原則夫)